

「元気をもらえるから」

愛知県瀬戸市立(小中一貫校)
にしの丘小学校校長・渡邊康雄さんからの報告

「校長先生に伝えておきたいことがあるんですが、今、大丈夫ですか…?」
地元の自治会長さんからの電話です。

本校はバスを利用して多くの児童・生徒が通っていることもあり、通学についてご指摘を受けることも多く、緊張感が高まります。しかし、いただいた電話はいい意味で期待を裏切るものでした。

「子どもたちの通学時の見守りをしてくださっているAさんが、一月下旬に硬膜下血腫で倒れて救急車で運ばれました。幸い発見が早く、命に別状はありませんでした。先日、退院をされましたが、心配した近くに住む子が一日も早く元気になってほしいということ、お見舞いに来たそうです。Aさんはそのことをとつても喜んで、勇気をいただいたから一日も早く見守りをやるって張り切っているんですよ」
本校の子どもたちを見守ってくださいっている

大切な方が、回復されているのでほっとするとともに、わざわざお見舞いへ行った子がいることを、他の子どもたちや先生たちに知ってほしくて、給食時に次のような放送を入れました。



小学校の校長の渡邊です。給食の時間ですが、少しだけ時間をください。実は、人を探しています。

先日、地域の方からこんな電話がありました。登下校の見守りをされている方が体調を崩され、見守りができなくなりました。するとそれを心配したこの学校の人がお見舞いに行つたそうです。そのことをものすごく喜んでおられ、なんとか元気になりたい。そして、またみんなと気持ちのいいあいさつを交わしたいって思われたそうです。お見舞いに行つた人が、どんな気持ちで行つたのかは分かりません。しかし、その人の優しさが体調を崩された人にとつて、ものすごく勇気になったことでしょうし、お見舞いに来てくれた人のためにも元気になろうって考えたんじゃないかなあつて思います。

塩草町方面ということとは分かっていますが、それ以上の方が分かりません。何か知つているという人がいたら担任の

先生か校長先生に教えてください。

みんなのあいさつが地域の人たちを元気づけています。そして、この学校には地域の方に対して優しい行動が取れる人がいることを誇りに思います。みんなは校長先生の自慢です。本当にありがとうございます。これで終わります。

放送を入れた後、校内を回つていると三年生の女の子が、「校長先生、先ほどの放送で言っていたお見舞いですが、私だと思えます…」と申し出てくれました。話を聞くと、その子だけでなくお姉さん、弟、そして、お母さんの四人でお見舞いに行つたそうです。お母さんにお礼を伝える機会に恵まれたとき、お母さんは「本当に見守りの方々には助けられていますので、少しでも元気になっていただければという思いだけです」と謙虚に答えられました。

この出来事を教えてくださった自治会長さんに、給食の時に「人を探しています」と放送をしたこと、その内容をホームページに載せたこと、女の子から「私だと思えます」って申し出があつたことなどをお伝えすると、「お子さんだけでなく、お母さんも一緒に行かれたんですね。それは、それはAさんも喜ばれたことでしょうね。学校であつた話をAさんにもお伝えしておきますね」って。

後日、順調に回復されているAさんに来校していただくことができました。

校内を案内した際には、お見舞いへ行つた子どもたち一人一人にAさんが「あのときは本当にありがとうね。とつてもうれしかったよ。また三月から見守りを頑張るからね」って再会する場面を設定することができました。また、子ども会としてもお見舞いに来てもらったそうです。その際、小さなプレゼントをした二年生の児童に対しても、Aさんはお礼を伝えることができました。

子どもたちやその家族、そして、見守りの方。相手に対する感謝が想像を上回るような心温まるドラマを、どうしても子どもたちに伝えたくて、再び給食の時に放送しました。



給食中に失礼します。小学校の校長の渡邊です。

先日、「お見舞いに行つた人を探します」と放送をしましたが、その後の出来事についてお伝えしますね。

あの放送の後、すぐに「私だと思いましたが」と三年生の女の子が申し出てくれました。話を聞くとその子だけでなく、六年生のお姉ちゃんも一年生の弟、そしてお母さんの四人でお見舞いに行つたそうです。また、子ども会としてもお見舞い

に行き、その時には二年生の子が手作りのプレゼントを持って行つたそうです。

また、病気で倒れた方もどんどん元気になつていたので、先日学校に来ていただけました。

そのときにも、「お見舞いに来てくれたことがうれしくて、うれしくて仕方なかった。本当に元気をもらったから、感謝しかない」って目を真っ赤にしながら話してくれました。さらには、「三月からまた見守りのボランティアを頑張る」とも話してくれました。ちよつと意地悪だったかもしれないですが、校長先生はその人にこう聞きました。

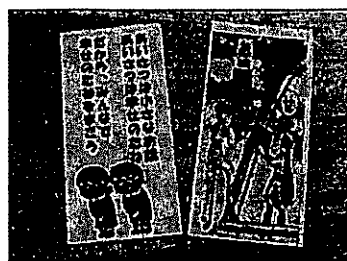
「毎日、早い時間から大変ですよ。冬は寒いし、夏は暑いし。ご自分のお子さんやお孫さんじゃない子たちのためにどうしてそこまで頑張るんですか？」って。すると、その方はこう答えてくれました。「やっぱり元気をもらえるからでしょうね。子どもたちがおはようございますって言ってくれたり、名前を呼んでくれたりするだけで、私たちはうれしいんですよ」って。

三学期の始業式で「あいさつは小さなお話」って言いましたが、見守りの方はそんな小さなお話を毎日楽しみにしているかもしれませんね。

これからもみんなのあいさつで、たくさんの人たちを笑顔に、そして、幸せにしてあげてください。

最後に、九年生でイラストがとつても得意なSさんが「あいさつシールの第2弾」を作ってくれましたので、またみなさんにお渡ししますね。これで校長先生の話を終わります。

本校が大切にしている教育の一つに「郷土愛の育成」があります。簡単に言えば、「地元を愛する心を育てる」といことになりませんが、産業や観光だけでなく、こうした心の触れ合いを通して、自分の住んでいる地域に誇りを感じてもらえたらと思つています。



編集長 渡邊

日本にもまだ、こんなにも温かな街があつたのです。コロナ禍で、ますます人と人との距離が薄らいでいる昨今ゆえ、よけいに心に沁みます。え？うちの街では、もつといい話があるですって？ぜひ、投稿をお待ちしています。